

た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺

〒197-0821

東京都あきる野市小川101番地 電話 0

42-558-2663

お盆

七月十三日（月）～十六日（木）お盆期間

★七月十七日（金）十一時よりお施餓鬼法要

お盆にはお花を供えご家族で墓参いたしましょう

お施餓鬼はお盆の行事として行われることが多いのですが、それは阿難尊者の故事に由来します。お釈迦様の十大弟子の一人に、説法を一番よく聞いた阿難尊者という方が、ある日、一人静かに座禅していると、焰口（えんく）という「餓鬼」が現れ「三日のうちに前回は死ぬ。そして『餓鬼道』に墜ち、俺とおなじ醜い『餓鬼』になるだろう」と告げたのです。

驚いた阿難尊者は、お釈迦様にそのことを話し、どうしたら良いかお尋ねすると「たくさんのお経の力と、たくさんのお飲食物を供えて、施餓鬼会を催しなさい。お経の力によって、供えた飲食物は無量の供物となってすべての餓鬼に施され、仏道成就の扶けとなるであろう」と諭されました。

住職ひと口法話 第八十五回

現代社会における人間関係の希薄化には様々な要因が考えられます。私たちの生活の中で、ネットやSNSは欠かせない存在になっていて、便利さや情報収集の手段として優れていますが、一方で人間関係を希薄にする要因となっています。

SNS上の「いいね」や「フォロー数」は、実際の人間関係の質を測るものではありません。オンライン上のつながりが増えることで、リアルなコミュニケーションが減少し、孤独感を感じる人が増えているそうです。

我々は広い社会に住んでいるといわれていますが、実際、具体的に自己の接する範囲は、テレビ・新聞・雑誌・書物等で概念的に知っているだけで、我が身が直接に触れている社会は甚だ小さいものに過ぎないと思われまます。そこで大切なのは、何が自分たちに生き甲斐を感じさせているか、人間と人間との具体的な結びつきの在り方を考えることではないだろうか。



阿難尊者が、教えに従って施餓鬼棚を設け、山海の産物を供えたくさんのお坊さんとともに読経して供養を営んだところ、命を長らえたばかりでなく、お釈迦様の弟子の中で最も長生きされたことが「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」に説かれています。

つまり、仏道を成就するためには、いかに説法を聞いて座禅しても、独りよがりの悟りを求めるのでは餓鬼道に墜ちることを教えているのです。自分がこの世に生かされている功德は、この世の人ばかりか、あの世の萬霊にも施し、自分たち人間はもとより、この世の生きとし生けるものすべてが、ともに仏道を成就したい、と願う生き方が私たちの願いでなくてはなりません。

現代の日本は飽食の時代といわれていますが、一見豊かそうに見えるこの社会にどこか冷たい空虚さを感じます。何もない時代には、お互いにいたわり合って少しの物も分け合って食べ、着る物も大切に繕い、住居も狭いながらも一家団欒を楽しんできました。個人の欲を押さえて皆が心を一つにしていたときは、

我々は学校・職場や街頭で、多くの人と政治的、経済的なコミュニケーションがとれるが、それは単なる生活のためには良いと思うが、考えの違う人間にとって精神的に満たされることは少ないと思う。人間と人間の基本的な結びつきは邂逅（思いがけない出会い・巡り会い）が最も重要だと思われる。いついかなる偶然により、誰と出会ったか、どんな影響を受け、どんな関係が生まれたかが、その人の一生を決定する場合が少なくありません。

読書も一種の邂逅であると思う。書物を通して心と心が触れ合ったならば見知らぬ著者との結びつきが生まれ、自身の生きる指針となります。我々は「人」や「書物」等の「別個の生命」に「邂逅」することによって、異なった生命が交わり摩擦し合って、精神の訓練を受け、初めて「我」を自覚するのではないだろうか。

人間の生活圏とは狭いもので、我々は一生の間に、全社会の部分部分を、わずかに体験するだけだと思われまます。これが現実である以上、この狭い中で「邂逅」（良き人・良き書物との巡り会い）の大切さを知る人こそ、真の社会性を備えていると言えるのではないのでしょうか。

宝清寺の年中行事

二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり（灌仏会）
四月八日	オリエンテンプリング
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お云式法要
十二月初旬	お父金締札

恵まれない生活でも我慢して、それなりに楽しく心豊かに過ごしてきたわけですが、豊かな生活を得られるようになると、他人より綺麗に、他の人よりも金持ちにと、自分の欲望が強くなります。こうした心の動きが、冷たい空虚さを社会に蔓延させていると思われまます。

この点についてお釈迦様は「欲にとらわれ、生の快樂にとらわれている人は解脱しがたい」と指摘され、自分が満たされていることに気付かず、いつまでも我欲・不満をもって足りない、足りない」と追い求める心を「餓鬼」と呼びまます。

「足ること知らざるは富めるといえども貧し」（法句經）

いま、私たちは、豊かさの中で、他人を思いやる心が薄れ、自己中心的になり、物の大切さ有り難さの感謝の気持ちを忘れ、心は貧しくなってきたいて「餓鬼道」に墜ちてゆく気がします。施餓鬼会とは、私たち人間のそのような「餓鬼」の心を反省し、人間本来の願いを蘇らせるために行われる大切な法会でもあります。

どうぞ、己の心に眼を向けて、霊界の「餓鬼」と心に巣食う「餓鬼」に手を合わせ一心に供養致しましょう。

お願いとお知らせ

一、毎号裏面掲載の「法華経と私たち第二十九回」は、次号に掲載致します。

一、お墓の名義人が転居などで住所が変わった場合、新しい住所、電話番号など、管理寺務所にご連絡下さるようお願い致します。

一、管理料を複数年度未納の方がいますが、管理料については、毎年その年の三月末日納入の前納制になっています。

料金は、年間一二、〇〇〇円となっています。納入方法は、

①多摩信用金庫秋川支店への振込

②年に一度の自動払込（自動払込はゆうちょ銀行のみとなっています）

③墓参の時に持参

の三つの方法があります。ご不明の点は管理寺務所にお問い合わせ下さい。

尚、寺務職員の勤務時間は、午前九時から午後五時になっています。緊急のご連絡の場合以外は、なるべく早めのご連絡をお願い致します。

一、宝清寺では六尺のお塔婆を使用していましたが、皆様から持ち運ぶ時に、長くて、重すぎるとのご意見が多数ありましたので、今後は五尺のお塔婆に変更致します。

お盆にはお塔婆を建てて、墓参致しましょう。